


地方・中小ISPにおけるIPv6対応の状況及び課題について



(社)日本インターネットプロバイダー協会
副会長 立石 聡明

地方における状況

- 現状、アクセス回線までIPv6対応済みのISPは非常に少ない。
- 技術的にはOKでも、踏み切れない。
様子見の状況が続いている
 - 理由
 - 地方のPOIまでIPv6のネイティブトランジットが来ていない
 - 技術情報及び対応できる技術者がいない
 - 経営層の理解がない
 - ローミング利用の事業者が多く、提供待ち
 - 需要がない
 - IPv4アドレス枯渇の意識(情報)がない

地方ISPにおける課題

- 技術者養成
- IPv6に関連するの情報取得
- ネイティブトランジットのPOI
- アクセスライン(特にADSL)のIPv6対応
- ユーザ対応への準備
- その他

課題の解消に向けて

- ネイティブトランジットのPOIの提供
- 技術(易～難)情報の共有
- サポート情報の共有
- その他全体的にIPv6の情報の提供
(見聞きする機会が少ない)
 - 需要予測の難しいIPv6への対応については経営層の理解が得がたい
- アクセス回線の対応
 - 地方においては殆どADSLであり、フレッツ光ですら少ない。
(NGNは始まっていないエリアの方が多い)